

投資戦略の焦点 1～281号 タイトルリスト

弊社設立前に発行しました武者著 281号までの「投資戦略の焦点」は以下の通りです。

お問い合わせ等ございましたら、info@musha.co.jpまでご連絡ください。

2009/6/29	281	長期国債は買いか、売りか ～米国は日本の「失われた10年」を繰り返さない～
2009/4/16	280	アニマルスピリットが復活、鋭角株高の準備を ～悲観論では梯子を外される～
2009/2/13	279	2009年「マーケット復活へのシナリオ」
2009/2/2	278	ドル体制をどう見るかー全ての国はドルに通ず
2008/11/20	277	2009年 恐慌の危機からの生還シナリオ
2008/7/1	276	日本は地球債却に活路を開け
2008/5/30	275	次のトレンド、中国牽引のグローバルカップリング
2008/5/20	274	黄金シナリオ不変、日経平均は2万円を目指す
2008/1/30	273	恐怖の悪循環の終盤、V字回復の可能性も
2007/12/7	272	サブプライム後の2008年、経済と市場展望 ～日本株式は千載一遇の買い場か～
2007/8/30	271	サブプライム問題の帰趨について ～今後資金はクレジットから株式へ～
2007/6/4	270	史上高値更新のSP500と米貯蓄不足論の誤り
2007/5/24	269	日本大バーゲン、物価安・円安・株安・金利安
2007/5/11	268	世界株式ブームと、出遅れ日本株式を巡る諸問題
2007/3/6	267	投機的株売りを過大視するな
2007/1/4	266	ナイトの「不確実性」と2007年の日本の株価革命
2006/12/5	265	2007年の展望 ～黄金シナリオ実現の年～
2006/10/25	264	アメリカは債務国という壮大な誤謬
2006/10/4	263	世界好況の追い風に乗る安倍政権
2006/8/22	262	誰も正しく将来を予測できない
2006/6/27	261	何故空前の「弥縫策」は大成功をおさめたか
2006/6/14	260	株安は市場の自動調節機能
2006/5/15	259	ドル安論は矛盾あり、ドル下落は一時的
2006/4/13	スペシャル	精鋭輸出企業に着目(推奨レポート32銘柄)
2006/4/12	258	国際分業の進展で優位性増す日本の精選製造業
2006/3/30	257	2006年度、再び世界成長が投資のテーマに
2006/3/14	256	2006年の経済と市場展望
2006/3/7	255	米国利上げ一巡の先のシナリオ
2005/12/20	254	相場大転換「黄金のシナリオ」を試す2006年
2005/12/7	253	市場が試し始めた黄金シナリオ
2005/12/7	252	金利裁定の復活
2005/10/13	251	最適AA、日本株持たざるリスク甚大(訂正版)
2005/10/6	250	日本株式、株価革命が起き始めた
2005/8/1	249	調整期入り不可避の中国
2005/6/28	248	日本先頭論、再論 ～株バブル、不動産バブル、金利低下は世界のトレンド～
2005/6/2	247	ドル高、金利低下、株高の持続性 ～だがそれは将来の衝突コース～
2005/5/18	246	米国株式バリエーションとリスクプレミアム ～壮大な投機の時代に幕～
2005/4/21	245	世界株安下の新しい経済的事実
2005/3/23	244	泥酔状態の米国経済 ～米国金利急騰に備えよ～
2005/2/9	243	チャンスは実物経済より金融にあり
2005/1/11	242	日本の低金利の再評価を ～デフレ均衡化での投資チャンスを考える～
2004/12/21	241	市場の分裂は何を発しているか ～2005年のテーマは引き続きドル過剰流動性の行方～
2004/12/1	240	2005年、日本株式の買い方 ～not growth but value～
2004/11/10	239	帝国プレミアムは定着するか
2004/10/27	238	米大統領選前後の市場動向 ～クレー懸念ではない、モトリアムの終焉だ～
2004/10/25	237	困難になる利益認識、透明性阻む日本の企業グループ
2004/10/22	236	日本株の不思議な弱さ→世界株安のさきがけか
2004/9/15	235	分水嶺に立つ世界株式 ～テクニカルリバウンド終焉～

株式会社 武者リサーチ

代表

武者 陵司

代表電話 (03) 5408-6818

直通電話 (03) 5408-6821

E-mail: musha@musha.co.jp
www.musha.co.jp

〒105-0021

東京都港区東新橋 2-18-3

ルネパルティーレ汐留 901

2004/8/20	234	需要減速と生産好調のギャップ顕著に 意図せざる在庫増可能性
2004/8/13	233	2005年リセッションの公算強まる ～急いで株ショート、債券ロングにシフトを～
2004/7/8	232	低成長容認しか選択案はない ～米国経済の持続回復困難、年後半の株安不可避～
2004/7/2	231	世界過剰流動性相場の終焉と日本株式の相対優位
2004/6/22	230	過大評価の2003年度決算、2004年度の減益公算も ～連結経常利益は実態を表さず～
2004/6/11	229	グリーンズイン議長を約交させた原油価格上昇 ～金融引き締め柔軟性なくなる～
2004/5/20	228	米中日、三つ巴ブームの破綻と世界不況のリスク
2004/5/10	227	四面楚歌の世界株式 ～グリーンズインの辛抱の無さが命取りに～
2004/4/16	226	放物線上のピークを形成しつつある世界株式
2004/3/4	225	シナリオ変更 ～日本株式の長期上昇が始まった可能性あり～
2004/2/24	224	モメンタムを失う株式市場 ～Best news is behind us～
2004/2/6	223	キャッシュフロー異変がとどめ刺す株高 ～個人所得の抑制が怪相に～
2004/1/28	222	米国株式はいつ天井をつけるか ～1996年の日本との類似性に着目せよ～
2003/12/19	221	2004年の投資戦略 ～ヘアマーケットの終焉、世界同時株安へ～
2003/12/9	220	信用循環の終焉を示唆する米国金融の悪調 ～2004年米国株式暴落の前兆～
2003/11/17	219	最弱景気の終盤相場、日本株は天井をつけたか ～美しい誤解、「tell me this time is different story」～
2003/11/5	218	宴の後を視野に入れ始める株式市場
2003/10/16	217	減税後の米国景気をこらみ慎重化する投資スタンス ～為替市場の先読みと株式市場が追随するか～
2003/10/6	216	日米通貨「密約」の限界 ～隘路は金融ではなく実物経済の需要サイドにあり～
2003/9/18	215	2003年4Qの10サプライズ ～看過されているこれ程多くのネガティブ要因～
2003/9/4	214	過熱相場の隘路 ～米国クリスマスセール息切れの公算～
2003/8/5	213	『海の家相場』の結末
2003/7/24	212	大転換期の投資戦略
2003/6/24	211	日米債券急落から始まる潮目の変化 ～良いとこ取り相場の終焉～
2003/6/16	210	世界過剰流動性相場の天井は低い
2003/5/29	209	通貨逆襲の時代へ ～米国為替政策転換の合意～
2003/5/19	208	りそな国有化は金融改革の終わりの始まり ～株価底入れに光明・竹中改革は生きていた
2003/5/16	207	債券社会主義対株式資本主義 ～不平等競争から抜け出せるか～
2003/5/8	206	メルtdown始めた日本株式 ～デフレ均衡シナリオを当分棚上げ、創造的破壊シナリオへ～
2003/4/23	205	論理を見失った株式市場 ～改革だけが長期下落トレンドを変える～
2003/4/11	204	漂う暗雲、底入れシナリオ消えた ～一万円は遠くになりコナリ～
2003/3/28	203	顕著な後退、IS THIS JAPAN? ～改革の挫折と株価底入れの延期～
2003/3/12	202	底値圏での大波乱が始まるか、日本株式 ～大底入れの必要十分条件未だ満たせず～
2003/3/6	201	デフレ経済論と株価論 ～デフレ経済下、企業利益防衛は可能か～
2003/2/24	200	異質のライダタイムが同居する世界株式市場 ～日本株式優位だが、銀行改革が必要条件～
2003/2/13	199	インフレ高原とバブル山脈を経て何処へ 何故日本株が優位か～
2003/1/30	198	大恐慌とデフレ均衡 日本の危機の特殊性～
2003/1/14	197	リカード分業の展開と円安展望
2003/1/9	196	新年の悪夢 ～銀行改革の先送り～
2003/1/7	195	企業業績の底入れが支える「デフレ均衡」 ～なぜ恐慌より「デフレ均衡」の公算が大きいのか～
2002/12/17	194	2003年の株式市場展望 ～「デフレ均衡」下、緩やかに体温回復～
2002/12/13	193	捨てる神あれば拾う神あり ～アジアとの製品競合度分析～
2002/11/29	192	日本株の魅力の理由 ～2003年日本株式の金融相場はなぜデフレの株高が実現する可能性を孕
2002/11/18	191	株価底入れの条件 ～「謙虚な期待」と銀行改革～
2002/10/31	190	「世界デフレ時代の到来と株式評価」 ～2003年日本株にチャンスあり～
2002/10/29	189	銀行改革と株価、外国人の見方 ～APECサミットのロス・カボスより～
2002/10/18	188	デフレ時代の日本株投資ストラテジー ～安定キャッシュフロー銘柄に注目～
2002/10/11	187	割安感強まる日本株式 ～日本が先導するデフレ時代の株式リユエーション～
2002/10/4	186	本格的優勝劣敗相場の幕開け
2002/10/1	185	金融抜本解決の展望強まる、ストラテジー・市場展望は不変
2002/9/25	184	世界恐慌のリスクの中、日銀が抱いた活路に期待しよう
2002/9/18	183	停滞から急落へ、世界恐慌の恐怖を織り込む秋相場スタート
2002/9/18	182	アジアが鍵を握る企業収益 ～調整の米欧、成長のアジア～
2002/8/16	181	どちらが先に転ぶか ～不美人投票の日本株優位はいつまで続くか～
2002/8/5	180	2003年世界不況でライダタイム転換 ～国際資金フロー激変で日本株相対的浮上へ～
2002/7/26	179	危険なポートフォリオ
2002/7/23	178	世界金融危機下、日本株をオーバーに
2002/7/13	177	先頭ランナーか、末尾ランナーか ～世界危機高まり、風化する改革論議～
2002/6/20	176	来るべきものが来た ～市場のメッセージは明白、最悪に備えよ～
2002/6/14	175	バブル経済批判 ～米国のバブルはいつかこいて生まれ、破綻したか～
2002/5/29	174	国際資金フローの潮流変化 ～1995年依頼のドル高時代は終わったか～
2002/5/24	173	株高の論点整理 ～本質は米過剰流動性によるマネーゲームか～
2002/5/10	172	意義の薄い循環論 ～認識論の基本を忘れるな～
2002/4/24	171	ダイハート・ジャコブ再論 ～辛抱の無い円安期待に警告～
2002/4/18	170	日本の経済と株式の基本構造 ～国会議員「政策研究・フォーラム21世紀」会合での講演録～

2002/4/10	169	世界過剰流動性の出口 ～notインフレbutデフレ、株高でなく債券高だ～
2002/3/28	168	相場のテーマは依然デフレ ～景気回復でない、デフレ下の小康状態～
2002/3/11	167	3月危機は封印された ～3～6月ベアマーケットラリーに～
2002/2/20	166	2002年2～3月の投資戦略 ～循環回復期待の挫折、3月危機へ～
2002/2/7	165	資本主義の暴力的合理性 ～フリーランチの清算を迫られる～
2002/1/29	164	変革期のデフレ政策 ～小泉デフレ政策はいずれ変更へ～
2002/1/22	163	緊急度を増す新年の投資環境～歴史の転換点における内外温度差～
2001/12/20	162	不可避の01・02年度連続減益
2001/12/11	161	2002年恐慌下の投資戦略
2001/12/3	160	ダイハート・ジャパンへ辛抱の無い円安期待に警告～
2001/11/28	159	ますます現実味を増す銀行国有化～小泉氏も「三方一両損」、部分国有化を覚悟へ～
2001/11/21	158	小泉さん、ここがロドスだ～首相のクーデターに勝機あり～
2001/11/13	157	小泉氏はサッチャー、ゴルバチョフor Nothing(？)～道路公団改革で抵抗派を排せるか、が試金石～
2001/10/30	156	循環論より分配論～日米とも労働分配率低下が鍵～
2001/10/22	155	ドルドルを破るもの～日本では過剰流動性相場の再現はない～
2001/10/16	154	歴史的転換点の米国経済～非力化するグリーンズ・インマジック～
2001/10/11	153	望ましくかつ可能性強まる銀行国有化
2001/9/26	152	危機に瀕する小泉改革～今こそ二つの非理性的(①銀行国有化、②インフレ)政策を～
2001/9/17	151	テロと金融危機の同時発生
2001/9/11	150	日経平均一万円割れの世界～賃金・生活水準の引き下げ開始、痛みを改革の飛躍台に～
2001/9/3	149	インフレ必要、金利上昇も必要だ～中途半端なインフレ誘導論～
2001/8/27	148	世界経済の3つのシナリオ～世界同時不況回避できても中期停滞は不可避～
2001/8/16	147	自己破壊的悪循環に入った日本経済と株式～ゼロ金利・敗者救済体制の帰結、壊滅的企業収益～
2001/8/9	146	ザ・リスト・チャリング・リバイバル&サバイバル～もう一つの聖域なき構造改革～
2001/7/23	145	求められる「非理性的経済政策」
2001/7/10	144	経済改革に沿うポリシーミックスを～このままなら狭き道ならず、道無き道～
2001/7/2	143	米国の生命線、日本の金融問題
2001/6/28	142	小泉氏の骨太改革方針の評価
2001/6/7	141	恐慌の危機と小泉内閣の使命
2001/6/1	140	急悪化局面に入る企業業績
2001/5/29	139	裏切られる循環回復期待～小泉改革でデフレ圧力高まる
2001/5/14	138	小泉内閣の改革推進でデフレ加速～年内は円・債券堅調、株安にシナリオ変更、8月以降の株安は不安
2001/4/23	137	循環回復か創造的破壊か～小淵総理を否定する小泉首相で改革路線加速～
2001/4/17	136	家計資産の喪失に準備を～近代日本3回目の財産剥奪の可能性～
2001/4/10	135	世紀の大底に向かう2001年度日本株式～条件は金融改革とリフレ政策～
2001/3/30	134	99年春の株価リバウンドは再現しない
2001/3/15	133	グローバル経済と株式市場の見通し～特別号:2001年2月15日財団法人産業経理協会経理部長会にお
2001/3/13	132	アメリカは日本のバブル崩壊の道を進るか
2001/2/28	131	特殊日本のデフレ情勢と株価
2001/2/13	130	旧円からのエクソドス～リセッションが引き金を引き資産大移動～
2001/1/30	129	コーポレート・ガバナンス向上に積極的な企業に注目～銀行・系列企業から株主への大政奉還を迎え～
2001/1/19	128	真の株価対策、銀行産業の蘇生～銀行の資本増強とガバナンス～
2001/1/10	127	臨界点を越えた米国株式～日本は当局の先送りで当面平静か？～
2000/12/19	126	2001年の投資戦略創造的破壊のクライマックスに向かう日本～短期超警戒、長期楽観的投資スタンスを～
2000/12/18	125	歴史は勝者によって書き換えられる～クリントン政権の負の遺産に着目するブッシュ次期大統領～
2000/12/5	124	リンゼー発言と亀井おろし～明確化する2001年日本株大底～
2000/11/30	123	日米で毀損するバランスシート～株安起点の金融不安へ～
2000/11/13	122	2001年ドル安に備えを～GS神話が自ら墓穴を掘る～
2000/10/30	121	バブルの原因:経済統計改定と会計の抜け道
2000/10/16	120	株高錬金術経済の破綻～DON'T USE OIL AS EXCUSE～
2000/9/21	119	ミニオイルショックで123円止
2000/9/8	118	閉塞へと進む米国株式～困難なソフトランディング～
2000/8/30	117	看過される金融安定化の限界
2000/8/10	116	アジア情勢アップデート:絶対調アジア向け輸出に暗雲
2000/7/26	115	日本が変わる疾風怒濤の20ヵ月～創造的破壊のクライマックスへ～
2000/7/17	114	政策整合性を失う森政権～道義の復讐は、金融不安第三幕の引き金に～
2000/7/5	113	「丁牽引」景気回復の幻想～ITが救世主から悪役へ？～
2000/7/3	112	株の頭を抑える中・長期懸念～遅改革・ゼロ金利解除・米国株安～
2000/6/9	111	2000年3月期企業決算サマリー～世界的ITブーム頼みの収益回復～
2000/5/11	110	S&P500PIX150を使ったセクター分析
2000/5/8	109	米国ハーダーランディングシナリオ～これから起こる10の事象(米国編)～
2000/4/24	108	G7で鮮明化した投資フレームワーク～調整に入る米国、政策選択肢を失う～
2000/4/13	107	疑わしい「ワールドエコノミー」相場の持続性～短命な逆二極化相場～
2000/3/16	106	景気自律回復論の陥穽
2000/2/29	105	米国変動で困難になる日本の景気回復(その2)～サイクルのピークで過大評価されるIT革命～

2000/2/21	104	米トリプル高を否定したグリーンズパン～NEW ECONOMYと言う名のOLD STORYその1～
2000/2/8	103	我々の投資戦略と欧州投資家
1999/12/20	102	2000年不況、株下落、創造的破壊の本番へ～世紀の投資チャンス～
1999/12/17	101	ポスト情報通信一極集中相場を睨んで～バリュエーション(害)株の見直し～
1999/12/3	100	バブルを正当化する収獲逡増の「法則」
1999/11/29	99	強気心理を凍らす為替とハイテク～狼少年宣言、年明け後の急落に備えよ～
1999/11/19	98	持ち合い株解消マトリクス
1999/11/11	97	インディアンサマーの景気と株式
1999/10/27	96	金融社会主義の出口～資本のハードルを下げる政策の限界～
1999/10/14	95	グローバル過剰流動性相場の終わり～続・NY市場の大幅調整に備えを～
1999/10/1	94	NY市場の大幅調整に備えを～ダムが決壊する前に～
1999/9/20	93	未だ持続回復が見えない企業業績
1999/9/16	92	円高は冷戦時代からの甘えの残滓を砕く下記に～日本の創造的破壊を導く～
1999/9/1	91	リスクシナリオをメインシナリオに～検証されつつあるバブル性～
1999/8/11	90	行き場を失う日本の貯蓄、ジヤパンマネー～再び問題化する投資貯蓄の不均衡～
1999/7/23	89	市場センチメントの突然の転換～ルービン好循環からドル安悪循環へ～
1999/7/2	88	米国株式バブル説の検討～高株価を生んだ財務戦略～
1999/6/23	87	内需加熱、株高対策に着手するグリーンズパンFRB議長～狙いは強制着陸、本格引き締め～
1999/6/10	86	株安・円高のロジック
1999/6/2	85	ディフェンシブへ、ポートフォリオの組み替えを
1999/5/21	84	焦点は流動性から再びデフレへ
1999/5/13	83	双子のバブル、双子の赤字～世界経済の新たな危機要因～
1999/4/27	82	流動性相場のうらにあるリスク要因～米貿易赤字と日本の景気後退～
1999/4/14	81	出口が見えない過剰流動性相場
1999/3/26	80	深化する世界のデフレの危機～限界みえた米国一指牽引の世界経済拡大～
1999/3/19	79	グローバルオプティミズが生んだ流動性相場～尻尾が犬を振り得るか～
1999/3/9	78	政策転換期待の見切り発車相場、いずれ期待外れに
1999/2/26	77	グローバル経済収縮のマイナス・サムゲーム～高まる通貨切り下げ競争のリスク～
1999/2/18	76	円安反転に限度あり～過大期待のインフレ・円安政策導入～
1999/2/10	75	小康経済下、危機の深化を示唆する金融指標
1999/2/3	74	3月末株価を左右する二大需給要因：外国人買いと株買い上げ機関の創設
1999/1/25	73	再びDENIAL(現状美化)の段階に戻る当局と市場
1999/1/18	72	円高が鮮明化させる日本問題：1999年の世界経済と日本
1999/1/8	71	円高下での日本一負け症候群 ～円のボラティリティを高める為替の二律性～
1998/12/21	70	円高が引き金を引く日本の創造的破壊
1998/12/1	69	金融社会主義VS資本主義 ～ガラス細工の今の安定～
1998/11/24	68	世界金融不安と日本経済の現状 ～特別号：1998年11月19日日本経済研究センター講演会より～
1998/11/18	67	多様な改革を模索するアジア、未だ夢うつ(仮想現実)の日本
1998/11/5	66	恐慌過程に入った産業景気 ～急悪化の企業業績、企業マインドの暗転は致命的～
1998/10/23	65	日本抜きのグローバル経済安定シナリオ～平成恐慌の下で円安不可避～
1998/10/2	64	経済危機下の相場展望 ～創造的破壊かカストロフィーか～
1998/9/24	63	求む銀行再建"7人の侍" ～Saving Private Japanese Banks～
1998/9/16	62	"強いドル"は世界の利益 ～米国が世界不況のラストリゾートたり得るか～
1998/9/2	61	ロシア危機で終わる90年代のエマージングブーム～米国型市場経済の苦い勝利～
1998/8/27	60	投資家期待値固めを ～政局流動化の急展開も視野に～
1998/8/21	59	貧者からの贈り物：世界経済の二極化のロジック
1998/8/5	58	焦点は2000年世界恐慌の回避 ～宮沢蔵相のソフトランディング諸批判～
1998/8/3	57	アジア発世界恐慌は回避できるか～その3～日本にこもめられるのは、産業構造転換を一気に進める改革
1998/7/30	56	歴史観を踏まえた相場観：Unthinkable become reality
1998/7/22	55	PARTY IS OVER ～創造的破壊か衰退的延命か～
1998/7/1	54	世界経済のアンカー米国経済：アジア発世界デフレは回避できるか ～その2～
1998/6/29	53	往信による長銀合併をどう見るか ～モラルハザードをもたらすEasy Solution～
1998/6/22	52	米国を取り込んだ日・中のポリティクス ～リスクの高まりをうかがわせる協調介入～
1998/6/17	51	円安トラップ(罠)に陥った日本 ～モラルハザードの虜になった日銀～
1998/6/11	50	破綻した日本の金融システム ～変する業界風景～
1998/6/3	49	実は非力、日本の外貨準備 ～ドル売り介入の余地は小さい～
1998/5/21	48	急悪化した企業収益、デフレスパイラルの危機
1998/5/11	47	バブル後安値をトライする東京市場 ～市場が迫る抜本改革～
1998/4/30	46	クローズアップされた日本危機 ～待ったなしの過剰貯蓄は正、金融システム改革～
1998/4/17	45	危機対応に最も遅れる日本 ～ワシントンG7、未だ続く幼児的現状否認～
1998/4/13	44	支離滅裂の政策当局 ～株式から為替まで戦線を広げた当局のPKO作戦～
1998/4/7	43	アジア情勢フォローアップ ～容易でないアジアの成長回復、人民元切り下げを代替する中国の通商政策～
1998/3/25	42	外為法改正で資本移動に劇的変化も～本格的円安時代スタートへ～
1998/3/18	41	明白な事実を直視せよ～4-6月相場暗転、再三の株安、円安へ～
1998/3/2	40	構造改革を進める景気対策とは何か～大型恒久減税が必須～

1998/2/20	39	大企業の経営転換が生む新興企業のビジネスチャンス～店頭市場への好影響を期待～
1998/2/24	38	四面楚歌の日本当局、G7は新たな摩擦の出発点～露呈した対日批判、3月末に向け株価は軟調に
1998/2/9	37	信用中枢が尻拭いをする金融安定化策
1998/2/3	36	98年の株式投資の要点～小さな政府、資本と労働力の流動化で新産業を興せるか～
1997/11/9	35	壮大な弥縫策、問答無用のスペンディングポリシーの可能性高まる
1997/11/2	34	アジア発世界デフレは回避できるか～その1～アジアのコンフィデンス・クライシス～
1997/12/19	33	恐慌の危機と向き合えば株のフリーフォールは回避できる
1997/12/17	32	最後の矢を放った橋本政権～抜本的構造政策とポリシーミックスの転換が必須だが～
1997/12/5	31	アジア危機の本質～過大投資の清算を迫るグローバルマネー～
1997/11/25	30	金融危機下で膨張する日銀特融～本格的円安スタート～
1997/11/18	29	政策変化に安易な期待はできない～年末までに日経15000円を下回る公算大～
1997/11/10	28	アジア危機第三波としての日本売り～グローバル・マネーがもたらす株・円のダブル安～
1997/11/6	27	昭和恐慌再現の可能性と回避の道～今の日本に井上財政的デフレ策は的外れ、ポリシーミックスの転換を
1997/10/28	26	世界危機ではない、アジア危機である、日本がアジア危機に合流するリスク高い
1997/10/24	25	和製エクセレント・カンパニー～長期保有を目的とした優良株ポートフォリオ～
1997/10/9	24	泥縄式の景気対策に追い込まれる橋本政権～円信認の切り売りが窮地脱出の唯一の手段～
1997/10/6	23	急を告げるミクロ景気と株式・リセッションを示唆する10月短観
1997/9/30	22	10月の注目点：下値不安の小さい中小型株の見直し
1997/9/24	21	日本が主役、香港G7の注目点
1997/9/12	20	問われるアジアの成長戦略
1997/9/5	19	金融異常事態シンドローム
1997/8/28	18	NY市場の調整は一時的
1997/8/25	17	緊急ストラテジーアップデートベアマーケットに備えを、無防備の経済と株式
1997/8/15	16	高まる金融リスク・クレジット・クランチ超金融緩和の下での資金難
1997/8/7	15	景気不安、再び株安・円安・金利安へ～年後半の相場想定～
1997/8/4	14	通貨混乱でアジアの成長鈍化は避けられず～今こそ過大評価を見直す時～
1997/7/25	13	企業収益に二つの懸念、増収鈍化、採算悪化～98年度には減益の可能性も～
1997/7/17	12	依然残る円高のリスク、ただ長期では円安トレンド
1997/7/3	11	当面の株式相場展望－BESTIS OVER－
1997/6/18	10	ビッグバン時代の投資戦略
1997/6/11	9	受動的な替論
1997/6/2	8	日本版ビッグバン第一弾ストックオプション導入のインパクト
1997/5/26	7	期待先行から現実へ～高値圏で漂う東京株式～
1997/5/20	6	アジアのもう一つのバブル崩壊国タイの通貨危機と日本の関係
1997/5/12	5	円、株、ブルマーケットは砂上の楼閣
1997/4/28	4	一段と強まる円安圧力
1997/4/21	3	バリュエーションは時期尚早
1997/4/14	2	始動するビッグバン～日本の金融資産に地殻変動が～
1997/4/7	1	4～6月、日銀の政策ディレンマは一気に高まろう～超低金利、為替安定の二律背反は持たない？
1997/3/16	-	進行する債権バブル～円安進行で破裂する日は近い～
1997/2/28	-	相場転換と見るには時期尚早 依然残る円安リスク
1997/2/10	-	G7合意の意味するもの～高まるドル選択に初めて警戒感、だが対策は手詰まり～